「やくそく」をよんでみよう（あらすじとポイントをかいせつ）

やくそく　あらすじ

ある　おおきな　木に、さんびきの　あおむしが　いました。

あおむしたちは　木の　はを　たべて、ちょうに　かわる　ひを　まっていました。

さんびきの　あおむしは　それぞれ、はっぱは　じぶんのだから　たべてはだめだと　おおげんか。

そのようすを　みていた　おおきな　木は、あおむしたちに　うえまで　のぼって　そとの　せかいを　みる　ように　いいました。

いちばん　たかい　えだに　ついて、はじめて　そらと　うみを　みた　あおむしたちは　めを　まるくしました。

からだが　ちょうに　かわったら、みんなで　うみまで　とんで　いこうと　やくそくを　しました。

やくそく　とうじょうじんぶつ

いっぴきめの　あおむし・・まいにち　木の　はを　たべて、からだが　ちょうに　かわる　ひを　まっている。
じぶんの　ことを「ぼく」と　よぶよ。

© ゆみねこの教科書

にひきめの　あおむし・・むしゃむしゃと　はっぱを　たべるよ。
じぶんの　ことを「わたし」と　よぶよ。

さんびきめの　あおむし・・もりもり　もりもりと　はっぱを　たべるよ。
じぶんの　ことを「ぼく」と　よぶよ。

おおきな　木・・はやしの　なかの　いっぽんの　木。あおむしたちの　けんかを　とめて　そとの　せかいを　みるように　いうよ。

やくそく　おはなしのポイント

『やくそく』の　おはなしでは、どんな　とうじょうじんぶつが　いて、どんなことを　いったのか、どんな　ばめんが　あったのか、そして　それぞれの　ばめんが　どんな　じゅんばんで　とうじょうしたか　せいりすることが　ポイントだよ。

「やくそく」とは

ところで、おはなしの　だいめいに　なっている　「やくそく」とは、どういう　いみかな？

「やくそく」とは、「なにかを　する」とか、「なにかを　しない」などきめて、それを　まもろうと　することだよ。

「ゲームは　しゅくだいを　してから」と　おかあさんと　やくそくしたり、「あした、こうえんで　あそぼう」と　おともだちと　やくそくしたりするよね。

© ゆみねこの教科書

「やくそく」の　ひとつめの　ばめん

　ひとつめの　ばめんでは、いっぴきめの　あおむしが　とうじょうするね。

　あおむしは、おとなに　なると　ちょうに　かわるね。

　いっぴきめの　あおむしは、おとなに　なって　ちょうに　かわる　ために　木の　はっぱを　まいにち　たべていたんだね。

「やくそく」の　ふたつめの　ばめん

　ふたつめの　ばめんでは、にひきめの　あおむしが　とうじょうするよ。

　にひきめの　あおむしは、いっぴきめの　あおむしと　そっくりで、「むしゃむしゃ　むしゃむしゃ」と　はっぱを　たべるね。

　にひきめの　あおむしが　はっぱを　たべているのを　みて、いっぴきめの　あおむしは「だめ　だめ。この　木は、ぼくの　木。ぼくの　はっぱ」と　いったよ。

　これは、いつも　はっぱを　たべて　いたので、「この　木は　ぼくの木だ」と　おもっていたからだね。
そして、ちょうに　かわる　ために　たくさん　はっぱを　たべなくてはいけないのに、にひきめの　あおむしに　はっぱを　たべられて　しまうと　こまると　おもったからだね。

　でも、にひきめの　あおむしも「この　木は、わたしの　木。だから、はっぱも、わたしの　はっぱ。」と　ゆずらないよ。

© ゆみねこの教科書

にひきめの　あおむしも、いつも　はっぱを　たべて　いたので、「この　木は　わたしの　木」と　おもっていたんだね。

「やくそく」の　さんばんめの　ばめん

いっぴきめの　あおむしと　にひきめの　あおむしが　いいあいを　していると、こんどは「もりもり　もりもり」と　はっぱを　たべる　おとが　したね。

これは、さんびきめの　あおむしが　はっぱを　たべる　おとだったね。

さんびきめの　あおむしも、いつも　はっぱを　たべて　いたので、いっぴきめの　あおむしと　にひきめの　あおむしが「この　木は　じぶんの　木だから、はっぱを　たべないで」と　いっても、「そんな　こと　しる　ものか。」と　いって　ゆずらなかったね。

これは、「この　木が　いっぴきめの　あおむしや　にひきめの　あおむしの　ものだとは　おもわないから、はっぱを　たべることは　やめない　よ。」という　いみだね。

こうして、さんびきの　あおむしは　はっぱを　とりあって　おおげんかを　したんだね。

「やくそく」の　よんばんめの　ばめん

さんびきの　あおむしが　けんかを　していると、「うるさいぞ」という　こえが　したね。

これは、さんびきの　あおむしが　いた　木の　ことばだよ。

© ゆみねこの教科書

木は、「みんな、もっと　うえまで　のぼって、そとの　せかいを　みてごらん。」と　いったね。

これは、この　木の　はっぱを　とりあうことで　むちゅうに　なってしまっている　あおむしたちに、「そとの　せかいは　もっと　ひろいよ」という　ことを　つたえたいからだね。

「やくそく」の　ごばんめの　ばめん

いわれた　とおりに　うえまで　のぼった　あおむしたちは、めを　まるく　したね。

「めを　まるく　する」という　ことばは、「おどろく」という　いみで　つかわれるよ。

さんびきの　あおむしは、じぶんたちが　いた　おおきな　木は、じつは　はやしの　なかの　たった　いっぽんの　木で、そとの　せかいは　もっと　ひろいということに　きがついて　おどろいたんだね。

「やくそく」の　ろくばんめの　ばめん

とおくには　うみが　あって、うみを　みた　あおむしたちは「あの　ひかって　いる　ところは、なんだろう。」と　いって、えだに　ならんで　せのびを　したね。

あおむしたちは、まだ　うみを　みたことが　なかったので、ひの　ひかりを　はんしゃ　して　きらきら　ひかっている　うみを　みて、おどろいたんだね。

© ゆみねこの教科書

そして「ひかって　いる　ところ」に　いってみたいと　おもった　あおむしたちは、「ちょうに　かわったら　ひかって　いる　ところまで　とんでいく」という　やくそくを　したんだよ。

「やくそく」の　ななばんめの　ばめん

やくそくを　した　あおむしたちは、こんどは　いっしょに　「くんねりくんねり」と　えだを　おりて　いったね。

さっきまで　はっぱを　とりあって　けんかを　していた　あおむしたちは、そとの　せかいは　ひろいことを　しったり、ひかって　いる　ところへ　いっしょに　とんでいく　やくそくを　したりして、もう　けんかを　やめたんだね。

「やくそく」の　はちばんめの　ばめん

おはなしの　さいごには、「木の　はが、さらさら　そよいで　います。」と　かかれているね。

さんびきの　あおむしたちが　けんかを　やめて、おおきな　木は、あんしん　したのかな。

「さらさら　そよいで　いる」という　ことばから、木が、おだやかで　やさしいきもちで　あおむしたちを　みまもっている　ようすが　つたわるね。

© ゆみねこの教科書

「やくそく」　まとめ

・だいめいの「やくそく」とは、なにかを　まもろうと　すること。
・さくしゃ（おはなしを　つくったひと）は　こかぜ　さち　さん。
・おはなしの　じかんは「ある　とき」
・おはなしの　ばしょは「おおきな　木の　うえ」
・ばめんの　じゅんばんは
①あおむしが　はっぱを　たべている
②にひきめの　あおむしと　いいあいを　する
③さんびきめの　あおむしも　とうじょうして　さんびきで
おおげんか　する
④おおきな　木が「そとの　せかい」を　みるように　いう
⑤あおむしたちが　うえまで　のぼって　ひろし　せかいに　おどろく
⑥ちょうに　なったら「ひかって　いる　ところ」まで　とんでいく
やくそくを　する
⑦さんびきが　えだを　いっしょに　おりていく
⑧木の　はっぱが　そよいでいる

© ゆみねこの教科書